



翔

2008 April No.191 百万石蝶談会

能登に生育するカンアオイの仲間とギフチョウ生息の可能性

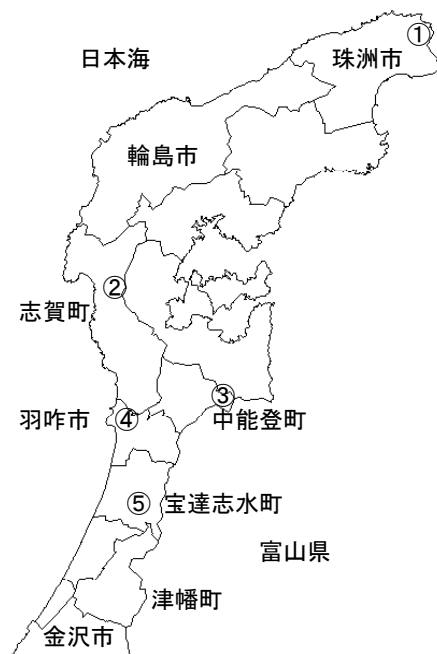
松 井 正 人

カンアオイの仲間は、ギフチョウの食草であり、石川県の山野では、ウスバサイシン、フタバアオイ、ナタデラカンアオイ、ヒメカンアオイ、セノビカンアオイ、ソノウサイシンを観察している。ナタデラカンアオイとヒメカンアオイは広く生育しているが、ウスバサイシンとフタバアオイの生育地は局所的で、セノビカンアオイとソノウサイシンは、それぞれ1箇所しか観察していない。

能登（ここでは河北郡津幡町以北を指す）では、ヒメカンアオイ3箇所、ソノウサイシン1箇所、フタバアオイ1箇所を観察している程度で、食草の少なさから、能登にギフチョウは生息していないと考えている。

しかし、ヒメカンアオイは、珠洲市、羽咋郡志賀町、羽咋市と生育地が広い範囲に散在することから、かつては広い範囲に生育していた可能性があり、そうなれば、ギフチョウも生息していた事が考えられる。

ギフチョウが生息していた可能性の1資料として、能登でこれまでに観察しているカンアオイの仲間の生育地を報告する。



カンアオイの仲間の観察地

1. 珠洲市寺家須須神社社叢（ヒメカンアオイ）

1978年に、照葉樹からなるの社叢林内の歩道脇でヒメカンアオイを観察した。かれこれ4半世紀前の事であり、現地がそのままの状態と保存されているか不安があり、2007年に再調査に出かけたが、観察した場所を詳しく記録して無かったため場所が特定できず、再観察できなかった。

2. 羽咋郡志賀町荒屋（ヒメカンアオイ）

荒屋から生神に抜ける峠があり、荒屋から峠に向かう途中から右側の谷に入る道がある。1980年に、この道を進むと耕作されている数枚の水田があり、そこから先は小川に沿って細長い水田跡が連なり、植林されて間もないような明るい環境で、小川の縁にあるヒメカンアオイの群落を観察した。1992年までは度々観察していたが、2007年には谷すべてが暗い人工林になっており、どこがどこか分からない状態で、再観察できなかった。

3. 鹿島郡中能登町石動山戒定坊跡（ソノウサイシン）

中世には360坊、衆徒3000余名を数えて栄えた石動山天平寺の戒定坊跡で、ソノウサイシンを観察した（松井、1994）。ソノウサイシンは、園芸植物とされ（藤澤、1983）、かつて栄えた時代に植栽されたものと思われるが、この生育場所は、2003年頃に行われたと思われる整備工事によって現在は失われている。

4. 羽咋市寺家気多大社社叢（ヒメカンアオイ）

社殿の背後に照葉樹林の社叢林が広がり、この森の裏側にはため池がある。2004年、ため池からの小道を入ると、狭い湿地にびっしりとヒメカンアオイが密生していた。この社叢林は、「入らずの森」として人の出入りが禁じられ守られてきたので、能登の照葉樹林には湿地に群生するヒメカンアオイが生育していた可能性がある。



羽咋市寺家気多大社社叢のヒメカンアオイ(2007年5月26日撮影)

5. 羽咋郡宝達志水町宝達山（フタバアオイ）

1982年、宝達集落を通り過ぎ、宝達川沿いの車道を進んだところで川沿いや近くの林内でフタバアオイを観察した。2007年に再調査に出かけたところ、現地の環境は変わっていないが、場所がうろ覚えだったので観察できなかった。

《 参考文献 》

藤澤正平（1983）ソノウサイシン．ギフチョウとカンアオイ：345-348．ギフチョウ研究会．
松井正人（1994）石動山のカンアオイとカラハナソウ．翔(109)：6．

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

石川県のオオミスジを探そう

松 井 正 人

オオミスジは、かつて金沢市の山間地集落周辺で普通に観察されていた。庭先や畑の隅に植えられたウメは、オオミスジの重要な食樹となり、このような所に6月頃に行くと、ゆうゆうと舞うオオミスジを観察することができたが、近頃はなかなか観察できないらしい。そこで、これまでの観察記録を紹介し、今後のオオミスジ観察の資料としたい。

観 察 日	観 察 地	観 察 数	観 察 者	参考文献
1979年7月4日	金沢市医王山	1 ♀ 目撃	金平永二	松井正人 (1980a)
1989年6月25日	金沢市医王山	1 頭採集	竹谷宏二	石川むしの会・他(1992)
1985年7月25日	金沢市角間	1 ♀ 目撃	松井正人	百万石蝶談会 (1985)
1987年11月8日	金沢市戸室新保	2 幼採集	田中秀夫	田中秀夫 (1987)
1990年3月4日	金沢市戸室新保	幼虫採集	野中 勝	
1991年4月7日	金沢市戸室新保	1 幼採集	野中 勝	松井正人 (1992)
1987年11月1日	金沢市戸室別所	7 幼採集	田中秀夫	田中秀夫 (1987)
1989年3月4日	金沢市戸室別所	2 幼採集	松井正人	
1990年3月4日	金沢市戸室別所	2 幼採集	野中 勝	松井正人 (1992)
1990年6月24日	金沢市戸室別所	1 頭目撃	松井正人	
1977年6月19日	金沢市山科	1 ♂ 採集	碓井 徹	松井正人 (1980a)
1958年7月18日	金沢市寺津	1 頭採集	今井宏三	武藤 明 (1959)
1979年6月17日	金沢市寺津	1 ♂ 目撃	松井正人	松井正人 (1980b)
1972年6月11日	金沢市小原	1 ♂ 採集	時国健太郎	時国健太郎 (1972)
1978年6月12日	金沢市小原	2 ♂ 採集	松井正人	松井正人 (1980a)
1978年6月13日	金沢市小原	2 ♂ 採集	松井正人	
1978年6月17日	金沢市小原	2 ♂ 1 ♀ 目撃	松井正人	松井正人 (1979)
1979年6月17日	金沢市小原	1 ♂ 採集 3 ♂ 目撃	松井正人	
1980年6月15日	金沢市小原	1 頭目撃	竹谷宏二	竹谷宏二 (1980)
1987年6月14日	金沢市小原	4 頭採集	井沢國雄・他	松井正人 (1992)
1985年6月13日	金沢市小豆沢	1 頭目撃	松井正人	百万石蝶談会 (1985)
1979年7月26日	金沢市瀬領	1 ♀ 採集	野中 勝	松井正人 (1980a)
1991年6月9日	金沢市大平沢	1 頭目撃	武藤 明	武藤 明 (1992)
1980年6月16日	金沢市湯涌	1 頭採集	江口元章	
1994年6月25日	金沢市俵	1 頭採集	澤田 博	百万石蝶談会 (1994)
1993年6月27日	白山市白山下	1 ♀ 採集	矢田新平	矢田新平 (1995)
2000年7月6日	白山市河原山	1 ♀ 採集	吉村久貴	吉村久貴 (2005)
2003年6月21日	白山市河原山	1 ♀ 採集	吉村久貴	吉村久貴 (2005)
1961年8月14日	小松市花立	1 頭採集	富沢 章	中山佐一郎 (1981)

オオミスジの観察地は、ほとんどが金沢市に有り、それ以外では、白山市の3記録は同じ場所と思われるので白山市に1箇所、小松市に1箇所が知られているに過ぎない。

越冬幼虫は、ウメの木の高い場所に台座を作り、40cm程の高さに多く（田中、1987）、筆者も地上30cm程にある当年枝のツルリとした樹皮や分岐部、あるいは小指程度の太い枝の分岐部から観察している。

成虫は、6月から8月にかけて観察され、6月中下旬に多数観察されている。山間地集落周辺に植えられたウメの木で観察され、♂は♀を捜しているかのように、ウメの木の枝の間をなめるように飛び回る（松井、1979）。

クリの花やアサツキの花からの吸蜜（松井、1979）や、地上に落ちた小さなカキの実からの吸汁（松井、1979）、クワの実からの吸汁（竹谷、1980）が観察されている。

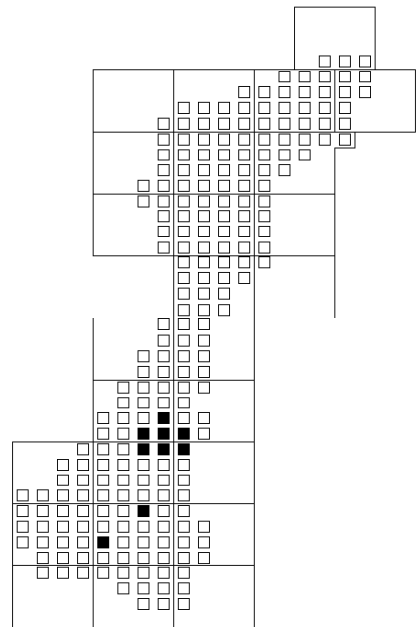


図1. 石川県のオオミスジの観察地
黒メッシュはオオミスジの観察メッシュ、
白抜きメッシュは未確認メッシュを示す。
罫線は国土地理院の5万分の1地形図を示す。

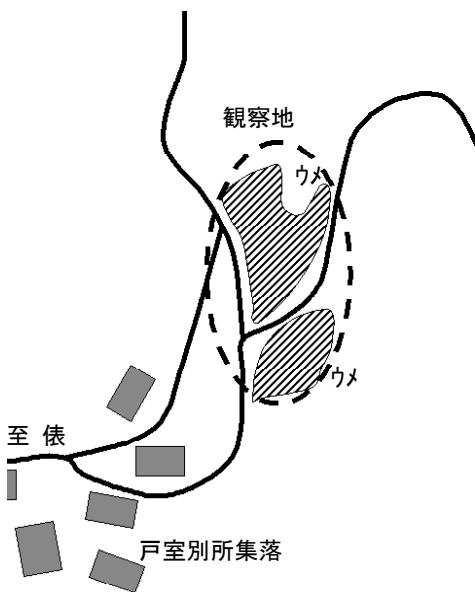


図2. 戸室別所の幼虫観察地(1990年当時)

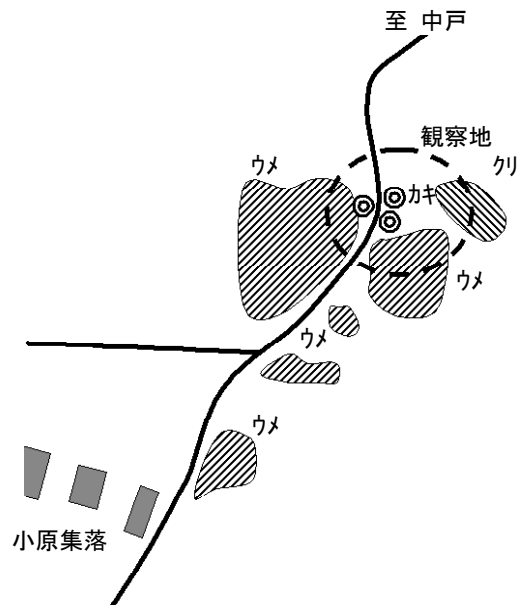


図3. 小原の成虫観察地(1978年当時)



図4. 降り積もった小さなカキの実から長時間吸汁する(1978年6月13日金沢市小原)



図5. あちらこちらとクリの花を飛び回りながら吸蜜する(1978年6月17日金沢市小原)

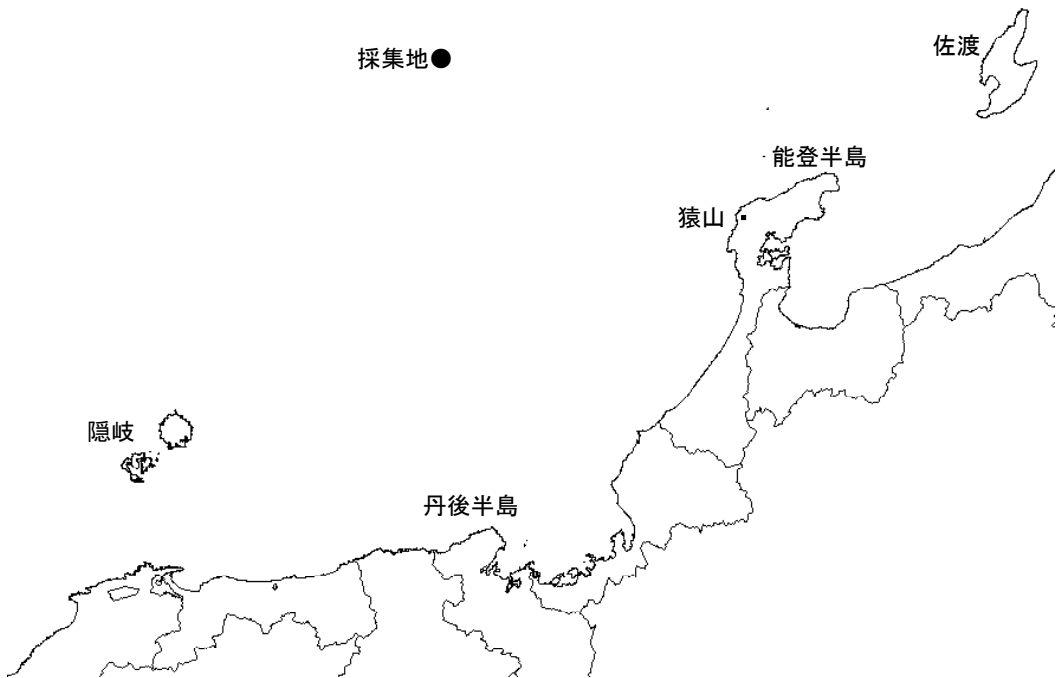
《 参考文献 》

- 百万石蝶談会編集部 (1985) 短報. 翔(52):7.
百万石蝶談会編集部 (1994) 短報28. 翔(111):9.
石川むしの会・他 (1992) 石川の自然 昆虫 写真集:104.
松井正人 (1979) 小原のオオミスジ. とっくりばち(42):2-3.
松井正人 (1980a) 石川県産Neptis 2種の記録. 翔(10):7.
松井正人 (1980b) クロシジミ探索記. 翔(16):3-4.
松井正人 (1992) 石川県のタテハチョウ3. 翔(98):3-10.
中山佐一郎 (1981) 小松市とその周辺のチョウについて. 小松市立博物館研究紀要(18):1-26.
竹谷宏二 (1980) 石川県の蝶-6. とっくりばち(44):1.
武藤 明 (1959) 金沢附近の蝶数種について. 新昆虫 12(5/6):40-41.
武藤 明 (1992) トンボとチョウの生態・分布資料. とっくりばち(58・59):2-4.
田中秀夫 (1987) 金沢市戸室地区でオオミスジ採幼. 翔(67):7.
時国健太郎 (1972) 蝶の新産地. とっくりばち(22・23):4.
矢田新平 (1995) 1992~1994年採集の蝶の記録より. 翔(115):7.
吉村久貴 (2005) 石川県産蝶類14種の記録. とっくりばち(73):18-19.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

能登半島沖180kmのアサギマダラ

松井正人・日吉芳朗



石川県輪島市猿山沖180kmの日本海、北緯38度3分、東経134度55分で、船上の灯火（集魚灯）に飛来したと思われるアサギマダラが採集されたので報告する。

採集者の本多 廣氏は、午後9時25分に、灯火の熱で大破損したアサギマダラと思われる個体を発見し採集した。採集された個体は、灯火の熱で焼かれた状態で4翅ともにほとんど無く、交尾器付近は炭化して種の特定には使えない状態だったため、胸部付近にわずかに残る翅と胸部のまだら模様から、採集個体をアサギマダラと判断した。

アサギマダラは、海を越えて渡りをすることで有名であるが、洋上の観察例はほとんど無く、夜も寝ないで飛ぶのかなど、どのようにして海を越えているのか分かっていない。

日没からおおよそ2時間半後に、最も近い陸地からでも180km離れた洋上で採集された個体は、夜間も休まず洋上を飛び続けるアサギマダラの可能性をうかがわせている。

最後に、船上での忙しい生活のかたわら、今回のアサギマダラを始めたたくさんの昆虫を採集していただいている本多 廣氏に心からお礼申し上げるとともに、交尾器の検鏡を快く引き受けていただいた富沢 章氏に厚くお礼申し上げます。

■2007年5月25日21時25分 アサギマダラ 1頭 本多 廣 採集

石川県輪島市猿山沖180kmの日本海（北緯38度3分、東経134度55分）

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

《ひよし よしろう 〒928-0001 輪島市河井町1部64-1》

根際で見つかった緑色のオオムラサキの幼虫

大 脇 淳

晩秋にエノキの根元でオオムラサキの幼虫を探してみたら、緑色の幼虫がいくつか見つかったので、報告する。なお、オオムラサキの幼虫の体色について、文献をご教示いただいた松井正人氏に深く感謝申し上げる。

2007年11月17日 金沢市戸室新保 7頭幼虫目撃 大脇 淳

私はこれまで、真冬のオオムラサキの幼虫探しでは茶色の幼虫しか発見したことがなかったが、今回は薄い黄緑色や緑がかった幼虫を4頭も発見した。しかし、原色日本蝶類生態図鑑II（福田ほか、1983）には、大半の幼虫は樹上で褐色になってから地表に下り、体色が緑のままで下りる個体は稀と書かれている。インターネットで＜オオムラサキの幼虫 体色＞というキーワードを入れて調べてみると、黄色くなったエノキの葉の上で褐色になった幼虫の写真がたくさん見つかったが、緑色のまま地表に下りた幼虫の写真も見つかった。また、東京都西多摩郡では1月でも緑色の幼虫が枯葉の裏から、たまに見つかるという（大脇 眞氏、私信）。このことから、条件によっては緑色のまま地表に下りることも珍しくはないようである。

2007年の秋は暖かったせいか（2008年1月も異常に暖かい）、幼虫が地表に下りる時もエノキの葉はまだ緑色だったので、多くの幼虫が緑色のままで地表に下りたのではないだろうか？

《 参考文献 》

福田晴夫・浜栄一・葛谷健・高橋昭・高橋真弓・田中蕃・田中洋・若林守男・渡辺康之（1983）
原色日本蝶類生態図鑑II. 保育社，大阪。

《おおわき あつし 〒920-0942 金沢市小立野1-23-20》

金沢市医王山のトビナナフシ二種の記録

浅 地 哲 也

石川県金沢市で、二種のトビナナフシを同時に採集したので報告する。
舗装道路にオーバーハングする樹木を叩き網し、両種共にミズナラから得られた。

シラキトビナナフシ 2007年8月26日 金沢市医王山三千坊 2 ♀ 浅地哲也

ニホントビナナフシ 2007年8月26日 金沢市医王山三千坊 1 ♀ 浅地哲也

《あさじ てつや 〒921-8021 金沢市御影町26-7》

石川県金沢市小坂町でトゲナナフシを観察

松 井 正 人

トゲナナフシは、本州、四国、九州に分布し（岡田、1999）、日本海側では石川県が北限の可能性が高い。これまでは、金沢市卯辰山以南で観察されていたが、更に北よりの地で観察したので報告する。

北限付近のトゲナナフシの記録には、太平洋側では千葉県君津市（井上、1999）、内陸部では群馬県藤岡市（群馬県、2002）、日本海側では石川県金沢市、新潟県三条市（桜沢、2003）がある。新潟県三条市が日本海側の北限かと思われるが、熱帯植物園もある公園で観察された1頭であり、温暖な地域からの植物に付随して移入した偶産種と報告されている（桜沢、2003）。富山県からの報告は無く、石川県金沢市が日本海側の北限かと思われる。

卯辰山の北方3 kmに小坂町があり、南斜面の山裾に接した住宅地の水路の中からトゲナナフシを観察した。水が流れている水路では山側の壁面に静止し、流水が無く落ち葉が溜まった水路では、水路に張り付いた棒のように長い体を壁面に添わせていた。

トゲナナフシは、寒くなると日当たりの良い南斜面に集まり、更に山裾に移動するものと思われ、湿気を好むために水路内に入り込むと考えられる。



水路壁面にぴったり張り付いているトゲナナフシ(2007年12月23日撮影)

最後に、千葉県のトゲナナフシに関する文献を調べていただいた大塚市郎氏に、お礼申し上げます。

トゲナナフシ	2007年12月16日	金沢市小坂町（標高20m）	2 ♀	松井正人
トゲナナフシ	2007年12月23日	金沢市小坂町（標高20m）	3 ♀	松井正人

《 参考文献 》

- 群馬県自然保護課（2002）トゲナナフシ．群馬県の絶滅のおそれのある野生生物動物編：92.
井上尚武（1999）千葉県のトゲナナフシの分布記録．ぱったりぎす(120):31.
岡田正哉（1999）ナナフシのすべて．55pp. トンボ出版.
桜沢英郎（2003）三条市・弥彦村・巻町で確認されたナナフシ類 越佐昆虫同好会報(88):26.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

会員の動き・しゃばの動き

■スジアカクマゼミのルーツ探し

小松ーソウル、小松ー上海は、ほぼ2時間、小松ー台北は、ほぼ4時間と近くなり、これからは、気軽に出かける機会が生まれそう。出かけた際は、ぜひ現地のスジアカクマゼミを採集してほしい。金沢産スジアカのDNA分析は終わっているの、後は各地のスジアカを調べれば、金沢産のルーツが見えてくる。

■馬の背図鑑「馬の背を愛する虫屋たち」

金沢市と南砺市の間に位置する医王山は、ゼフの好採集ポイントとして知られ、中でも馬の背ポイントは、ブナの大木が見下ろせるとあって近年多くの虫屋を集めている。この主が、チョウの撮影の合間に撮りためた虫屋の写真集「馬の背図鑑」を作った。

■「魚釣り」みたいですね

「馬の背図鑑」5ページ、長竿のたもとで談笑する3人。竿の先が写ってなく、4本の竿が水平に置かれているので、竿の先には水面が有り、「何が釣れますか」とでも話しているように見える。

■精度が上がる初飛観察

ギフチョウの初飛観察は休日にしかできず、天気の良い平日は空を見上げているばかりだった。それが、数年前からS氏が平日をカバーすることになり、今年からはH氏も加わるようになった。

■小松ー那覇の搭乗券は

4月には細沼氏が、5月には日吉氏が八重山に出かけるが、安い搭乗券を手に入れ

ようと2人とも苦労している。

小松ー那覇(片道)は、

通常	37,400円	先特割	23,650円
往復	33,700円	株主優待	18,700円
特割7	28,900円	バーゲン	16,000円

■花は桜木、春はギフチョウ

3月5日、気象庁から桜の開花予想があり、金沢は前年より9日遅い4月7日と発表された。昨年の初飛観察は3月21日、とすれば今年は3月30日が初飛となるが、こんなに遅いのか。

■春を迎えに行ったが

3月9日、気温がグングン上昇し、春が見え隠れしだした。丁重に春を迎えようと小松に向かった細沼氏だったが、春の姿は見えなかった。

■春は姿を見せず

3月12日、続く好天に誘われて、春探しに出かけた小幡氏、日だまりに舞い踊るテングチョウやアカタテハに、もしやの期待が高まったが、春は姿を見せなかった。

■重装備で出かけたが

3月16日、もはや時間切れ、春はしびれを切らしてお出ましすると読んだ松井氏、花粉が渦巻く世界に重装備で出かけたが、あに図らんや、春どころかテングやアカタテハの舞い踊りも披露されなかった。

■好天が続く日本列島

気象庁は3月12日に桜の開花予想を修正し、金沢は4月5日と2日早くなったとしたが、3月19日になって再び4月2日に修正し、更に早くなった。

■ギフチョウの飛ばぬ限りは春にはあらず

外見とは違って身軽な細沼氏、今日こそはと連日通っている。鶯が鳴き桜も咲いて、文句なしに春の訪れを感じているのだが、春のお出ましは無かった。

■3月22日アイドル登場

一目でも見ないと気が済まない。毎年こんな気持ちになって通い続ける春探し。ようやく春が現れ、気持ちがおさまったが、かくも虫屋の気持ちを踊らせるギフチョウは、虫界のアイドルに間違いない。

■強制採卵の孵化率が悪い

昨年、医王山で採集したメスアカミドリに産卵させていた細沼氏、孵化率が悪いとこぼしている。現地で採集した卵の孵化率は良く、同じ条件で庭に吊していたのに、なんでやろ。

■我が身ひとつはもとの身にして

昔ながらの土側溝、落ち葉が積もるガタボコ道、毎年ギフチョウに出会うのを楽し

みに30年ほど通っているが、どうやら工事されるらしい。懐かしい友がまたひとり失われる。

■ 例 会 の 記 録 ■

2月21日（木）浅地メッキ2階にて、午後8時から開催。

今回は久々に小幡氏が参加し、念願だった翔表紙カラー化のいきさつや今後の可能性、写真のサイズなどについて説明し、表紙写真の募集をPRした。

その他の話題は、ギフチョウ早期観察ベスト34、ウエダオルムは強欲トラップで3桁、冬期も活動するイムナダ、コウモリバエとクモバエ、クワガタやカブトが舐めたゼリーは黴びない、ヤゴが川を下るミヤマサナエ、ヌレチビゴミのニュー、アルバム馬の背を愛する虫屋たち、などなど。

参加は、井村、松井、大脇、大宮（初参加）、浅地、小幡の6人。

■ ■ 表紙デザイン：小幡英典 ■ ■

目 次

松井正人：能登に生育するカンアオイの仲間とギフチョウ生息の可能性	…… 1
松井正人：石川県のオオミスジを探そう	…… 3
松井正人・日吉芳朗：能登半島沖180kmのアサギマダラ	…… 6
大脇 淳：根際で見つかった緑色のオオムラサキの幼虫	…… 7
浅地哲也：金沢市医王山のトビナナフシ二種の記録	…… 7
松井正人：石川県金沢市小坂町でトゲナナフシを観察	…… 8
編 集 部：会員の動き・しゃばの動き	…… 9

翔

191号

Tobu 2008年4月10日発行

百万石蝶談会

金沢市大場町東871-15 松井方

<http://homepage3.nifty.com/100man/>

☎920-3121 ☎076-258-2727

郵便振替 00750-8-562

印刷 小西紙店印刷所

